

帰省先での子どもの誤飲事故に注意しましょう！

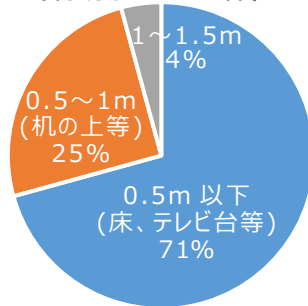
お盆の時期は小さい子どもを連れて祖父母宅などに帰省する機会が多くなります。中毒110番では、祖父母宅で起きた5歳以下の子どもの誤飲事故についての相談を年間270件程度受けています。

5歳以下の子どもの祖父母宅での事故（2021～2025年）

相談の多い製品（のべ1,367件）

製品	件数に占める割合
医薬品	37%
たばこ	8%
家庭用殺虫剤	7%
植物	6%
化粧品	6%
洗浄剤	6%
芳香剤	5%

製品があった場所の高さ
（判明した639件）



● 次のような相談があります。

「目を離した隙に、リビングの机の上にあった祖父の薬を子どもが食べた。」

「床に置いていた殺虫剤のホウ酸団子を子どもがかじった。」

「祖父の血圧降下薬を子どもが食べて、血圧が下がった。」



祖父母宅には、子どもにとって普段見慣れない、興味を引かれるものがいろいろあります。また、普段大人だけで暮らしている家庭では、誤飲対策が十分に取られておらず、思わぬ事故が起きることがあります。

中毒110番では、祖父母などが服用している薬の誤飲の相談が多く、特に血圧降下薬、糖尿病用薬、催眠鎮静薬などは、子どもにとって少量でも危険な場合があります。注意が必要です。

● 事故防止のために以下の点に注意しましょう。

- ・帰省する側は、子どもは身の回りにあるものを何でも口に入れること、特に薬は危険であることを祖父母や親戚に事前に伝えましょう。
- ・子どもを迎える側は、誤飲の危険があるものを子どもから見えない場所、またはイスや台を使っても届かない場所に保管しましょう。床に置いたホウ酸団子などは一時的に片付けましょう。
- ・子どもは大人を観察して真似をするので、子どもの前で薬を服用しないようにしましょう。
- ・子どもの滞在中は、周囲の大人が子どもの行動に気を配り、目を離さないようにしましょう。

事故が発生し、受診すべきか判断に迷った場合は中毒110番にご相談ください。

公益財団法人日本中毒情報センター 中毒110番電話サービス（一般向け 365日 24時間対応）

■ 大阪中毒110番 072-727-2499

■ つくば中毒110番 029-852-9999

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局 電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。